

有識者の方にお話を聞きました

Q 高校生に行ったアンケートの回答の中には、「いちいち気にするから生きにくくなったと思った」という意見や、「(自分にはできないなど)自分に対して偏見を持って決めつけてしまう」などの回答がありました。

A 「気にしすぎると生きにくい」という意見は一理ありますが、無自覚な思い込みに気づくことも重要です。また「自分にはできない」と決めつけてしまう自己偏見は挑戦を止め、成長の機会を失わせます。多くの可能性を持つ高校生にこそ注意してほしい課題です。

Q 高校生や大学生が持つことが多いアンコンシャス・バイアスの例を教えてください。

A やはり進路にもつながる「理系は男子が多い・文系は女子が多い」でしょうか。近年、理系の大学では「女性枠」というものを導入するところが増加し、話題になっていますが、これらがなく社会が理想ともいえます。また、「学歴が高い＝成功する」「みんなと違うと変だと思われる」なども挙げられます。特に2つ目のいわゆる「同調圧力」は日本社会では根強いとの研究もあり、「小さな社会」である学校も、似たような状況である可能性があります。

Q 社会人が持つことが多いアンコンシャス・バイアスの例を教えてください。

A 企業では「女性は結婚・出産で離職する」「管理職は男性がふさわしい」といった偏見が根強く、家庭にも影響します。さらに昇進に時間がかかる日本社会では「若者には責任ある仕事を任せられない」という年齢バイアスも存在し、社会全体の課題となっています。

Q 統計に基づく判断と偏見は、どう違うのでしょうか？例えば、「ある会社の男性社員の平均年収が女性社員より100万円高い」というデータがあったとしても、それだけで「会社が女性を不当に扱っている」と決めつけるのは良くないと思います。こういう場合、どう考えるのが良いのでしょうか？

A 「男性社員の平均年収が女性社員より高い」という事実は確認できますが、その理由は「昇進機会の差」「勤続年数・学歴の違い」「職種の分布」などさまざまな要因が重なり合っているため、これらの要因を揃えたうえでの数値が必要です。さらにこの数字をもとに「この属性の人たちには同じ傾向がある」と決めつけることもアンコンシャス・バイアスであり、経済学の用語で「統計的差別」と呼ばれています。

Q 宗教的な信念は、人にとって大事な心の支えとなる一方で、知らないうちに「自分の考えが正しい／普通だ／当たり前だ」という無意識の思い込みを生み出す可能性もあると思います。いろいろな背景や価値観を持つ人が集まる社会では、そのような考えとどう向き合っていけばいいのでしょうか。

A 宗教は人の心を支える一方で「自分の考えこそ正しい」という思い込みを生むことがあります。その結果、異なる価値観を持つ人との衝突も起きます。他者の考えを否定するのではなく「なぜそう考えるのか」を理解しようとする姿勢が不可欠ですが、実践には難しさも伴います。

Q 「アンコンシャス・バイアス」に気をつけながらも、自分の考えや自由な意見を持つには、どうやって気をつけられればよいでしょうか？上手なバランスの取り方はありますか？

A まず、自分の意見を持つことがとても重要です。少子高齢化が進む現代の日本では、若者が積極的に意見を出すことが、次世代の日本を形作る重要な行動です。社会に出たり大学に進学したりすることにより、高校よりもはるかに多様な人たちと接することになります。そこで、これまでとは異なる、違う意見を持つ人の話を聞いてみることも重要だと思います。

Q 高校生の私たちは、今後、アンコンシャス・バイアスに対してどのように向き合えばいいですか？

A 第一歩は「知らないままにしない」ことです。ニュースやSNSを批判的に捉え、根拠を確かめる習慣が必要です。家族や友人との会話にも偏見は潜むため、多様な人の経験に触れることで自身の思い込みに気づく機会が増えます。視野を広げる中で偏見を乗り越える力を養えます。



この記事を通して、あなたが気づいた「アンコンシャス・バイアス」はありましたか？アンコンシャス・バイアスによるネガティブな影響を防ぐために、日常の中で、次のようなことを大切にしてみましょう。

「べき」「普通は…」に注意！

「男性なら残業するべき」「普通は女性なら結婚するものだ」本当にそう言い切れますか？押しつけや決めつけの言葉が出たら、立ち止まって考えてみましょう。

相手の「サイン」を見逃さない

家族や友人、同僚と話しているときに、急に相手の表情が曇ったり声のトーンが変わったりしたら、自分のアンコンシャス・バイアスから出た言動で相手を傷つけたのではないかと振り返ってみてください。

常に自分に問いかける

アンコンシャス・バイアスを完全に払しょくするのは難しいです。だからこそ、常に自身の言動を振り返り、問いかけることが大切です。

出典：政府広報オンライン「アンコンシャス・バイアスを減らす3つのポイント！誰もが活躍できる社会に」

周りの人や自分自身の可能性を否定せず、自分らしく生きていくために、改めて無意識の思い込みについて考えてみましょう。